

学校教育目標 (教育方針)	「自主・自律・自学」の校訓に基づき、社会的・職業的自立に向けた基礎となる力を育て、グローバル社会の中で貢献できる生徒の育成をめざす。	
3つの方針 (スクールポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【G P】	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的・基本的な知識・技能を修得し、思考力・判断力・表現力及び自ら考え学ぶ意欲や態度を身につけた生徒</li> <li>豊かな人間性や情操とともに、自らの行動に責任をもち主体的に判断し行動する態度や、積極的に自己を活かす能力を身につけた生徒</li> <li>自己の在り方や生き方を考え、主体的に自らの進路を考える能力や態度を身につけた生徒</li> <li>地域社会への理解や関心を深めるとともに、国際化に対応できる能力を身につけた生徒</li> </ul>
	生徒をどう 育てるか 【C P】	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の興味・関心を喚起し、思考力を高める授業の推進</li> <li>信頼と愛情を基盤とし、生徒理解に徹する指導の推進</li> <li>将来を見据えた体系的なキャリア教育の推進</li> <li>地域に存在する様々な問題の解決を目指す探究活動とその地域連携の推進</li> </ul>
	どんな生徒を 待っているか 【A P】	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自主、自律、自学」を身につけ、「自分らしい生き方」へ向かって進む意欲のある生徒</li> <li>本校の教育目標及びグラデュエーション・ポリシーを理解し、カリキュラム・ポリシーに沿った学習活動に、主体的に取り組む意欲のある生徒</li> <li>自身の現状に満足することなく、より高い目標を設定し努力し続ける意欲のある生徒</li> </ul>
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの生徒の自己実現のために、自主・自律・自学の校訓のもと、自ら学ぶ姿勢と確かな学力を身につけさせること</li> <li>生徒の知的好奇心を刺激し、基礎的・基本的な知識・技能の修得とともに、思考力・判断力・表現力を高めるための授業を展開すること</li> <li>豊かな人間性の育成のために、文武両道の理念のもと、他者と協働して様々な活動に積極的に取り組む態度を養うこと</li> <li>自己肯定感や自己有用感の育成とともに、物事を公平に判断する力や、自他の多様なあり方や生き方を互いに認め合う姿勢を育むこと</li> <li>社会で指導的な役割を果たす人材の育成が期待される学校として、地域を愛する心とともに、グローバル社会で活躍するための広い視野を育むこと</li> </ul>	
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
	学習指導	生徒の興味・関心を喚起し、思考力を高める授業を推進します。
	生徒指導	信頼と愛情を基盤とし、生徒理解に徹する指導を推進します。
	進路指導	将来を見据えた体系的なキャリア教育を推進します。
	特別活動	自主的、実践的な態度を育成するとともに、豊かな人間関係を育みます。

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的な取組・方策	県教育振興基本計画 での位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
学習指導	基礎的な知識・技能の定着と発展的な学習のために指導方法・評価方法を工夫し、授業の充実を努め、観点別評価についてさらに研究を進めます。	8	施策Ⅱ-8	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 生徒による授業アンケートの分析結果</li> <li>② 各種調査などによる学力到達度の分析結果</li> <li>③ 生徒による授業アンケートなどの分析結果</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を大切に、小テストや単元テストを活用しながら、定期テストだけの評価にならないように生徒を指導した。</li> <li>・数学、英語、理科については少人数・習熟度別授業を展開し、個別最適な学びを意識した内容で指導をした。</li> <li>・ICTを積極的に活用し、ほとんどの授業でスライド資料等を使った授業が展開でき、生徒も各自のタブレットを活用している場面が多く見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観点別評価の研究が進んだが、従来の評価方法よりも若干評定が高くなってしまったという問題が明らかになった。</li> <li>・少人数授業は効果的であるが、教員の教が減少している状況では維持することが難しくなっている。</li> <li>・ICT機器の破損が依然として多いため、生徒・教員共に取り扱いに注意していきたい。</li> </ul>	B
	思考力・判断力・表現力等を育てるために、少人数・習熟度別授業を展開し、生徒の個性や能力に応じた指導を充実させ学力の伸長を図ります。	8	施策Ⅱ-8				
	言語活動の活性化やICTの積極的な活用を通して探究的な学習を進め、生徒が自ら課題を見つけ解決していく主体的な学習態度の育成を図ります。	9	施策Ⅱ-9				
生徒指導	社会の一員としての自覚を深め、自律的な態度、自他の生命を大切に人権を尊重する態度を育てます。	1	施策Ⅰ-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 日常生活における生徒の様子の変化</li> <li>② いじめ・迷惑調査など各種学校生活調査の分析結果</li> <li>③ 生徒・保護者対象アンケートなどの分析結果</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導部の月間テーマを設定し、生徒の挨拶や身だしなみ、交通安全などに対する意識向上を目指し指導をおこなった。</li> <li>・いじめ問題に関して、早期発見早期対応ができるよう、職員研修をおこなったほか、アンケート(年3回)や生徒との面談(年2回)で確認をおこなった。</li> <li>・三者懇談を年2回実施したほか、問題を抱える生徒の保護者とは担任が密に連絡を取った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各項目に関する意識向上は見られたが、特に地域住民から交通安全や公共交通機関等でのマナーに関する指摘をいただくことがあったため、さらなる啓発が必要と考える。</li> <li>・いじめ不登校の問題は引き続き危機管理意識を持って当たる。</li> <li>・ボランティア活動などで地域との連携を進めることができた。</li> </ul>	B
	いじめ、不登校、問題行動には、全職員が危機管理意識をもち、共通理解のもと一体となって指導に当たります。	3	施策Ⅰ-3				
	保護者や地域との連携を密にし、理解と協力を得て、三位一体となった指導を推進します。	7	施策Ⅰ-7				
進路指導	3年間を見通し、生徒の発達段階に応じた計画的・組織的な進路指導を展開します。	1	施策Ⅰ-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 行事ごとのアンケート結果</li> <li>② 各種調査、外部模試などの分析結果</li> <li>③ 生徒・保護者対象アンケートなどの分析結果</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進学指導重点校事業、ICTなどを有効活用できた。</li> <li>・推薦入試の実態の変化に合わせた規定の改善ができた。</li> <li>・卒業生の後輩支援登録者などの外部人材と、校内職員の人脈を有効に活用できた。</li> <li>・八校会をはじめとする進路指導担当者の連携、受験産業の営業担当をはじめとする外部組織の活用することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従来よりもICTの活用等により、情報提供の機会を増やし、職員、生徒に共有できた。情報提供に対して、生徒からの反応が不足しているように感じる。</li> <li>・新課程に関連して情報収集を行うことができた。実際に行ってみないと分からないことも多く、今年度の情報を上手に回収したい。</li> <li>・学年正担任2名ずつの進路指導部と副担任1名により、模試データ分析と資料作成、学年集会等の企画を実施した。</li> </ul>	B
	生徒が希望する進路目標を実現できるよう、確かな学力を身に付けさせます。	8	施策Ⅱ-8				
	生徒一人一人が自己の多様な能力・可能性を理解して、主体的に進路選択できるよう、学校生活の様々な場面でキャリア教育を充実させます。	13	施策Ⅱ-13				
特別活動	ホームルーム活動を通して所属意識を育むとともに、互いに切磋琢磨できる人間関係を育成します。	1	施策Ⅰ-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 生徒・保護者対象アンケートなどの分析結果</li> <li>② 生徒会行事・学校行事などの後に行われるアンケートの分析結果</li> <li>③ 部活動の実績や生徒・保護者対象のアンケートの分析結果</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校祭への取り組みや球技大会、HR役員の仕事などを通して、所属意識や自己有用感を育んだ。</li> <li>・学校祭や球技大会の企画運営を生徒会や各HRが主体的におこない、伝統継承と創造の達成感を感じる。</li> <li>・部活動を通じて、主体性と協調性、力強い精神力を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自が所属するグループの中での役割を果たし、達成感や自己有用感を感じることができた。</li> <li>・体育館が使用できない状況の中で、各行事を工夫し、企画運営することができた。</li> <li>・生徒自身が主体的に部活動に取組み、多くの部活動が県大会に出場するのみならず、東海大会や全国大会へ出場する部活動もあった。</li> </ul>	A
	生徒会活動の充実を図り、学校の伝統継承と、自ら主体的に創造・改善する喜びと達成感を体験させます。	8	施策Ⅱ-8				
	部活動を通して、仲間と支え合いながら強い精神力を育み、社会生活を豊かにする人間力を醸成します。		施策Ⅳ-24・25				

来年度に向けての改善方策等

・観点別評価のルール変更を行い、より細かく数値化し、生徒の実態にあった評価を付けられるようにする。DXハイスクール事業で新たなICT機器を導入することをきっかけに、より生徒の探究活動を活性化させ、ICT機器の扱い方への意識も高めていきたい。

・現状として、人間関係づくりを苦手とする生徒が増加傾向にあると考えられる。学校行事やボランティア活動を通じて、何かの役割を果たしたり、他人の役に立つ活動をすることで、自己有用感を高めるとともに、良好な人間関係づくりができる人格形成を目指したい。

・「年内入試5割時代」に伴う教員の負担増に対して、特に推薦入試に係る負担を全職員で負担できる体制づくりを検討及び実施した。しかし、全体教員の負担増は変わらず、教員の負担が増加した。学年の進路部員と副担任により、進路指導の企画、実施を行っているが、3年進路指導部員の負担が大きく、負担を減らすための工夫を今後より行うべきである。

学校関係者評価

実施日：令和7年2月4日

・今年度は国民文化祭や総合文化祭があり、高校生が地域で活躍する姿がよく見られた。少子化の中で、地域の施設と子どもたちのつながりが大切にされていくとよい。

・ボランティアの経験を生かしての進学も総合型選抜などでは見られるようになってきた。自分の世界を広げる意味でボランティア活動や資格取得の挑戦などもしていくとよい。

・3年生は2月に入っても基本的にこれまで通りの登校を続けるとのことで、生活リズムを崩さずに大学受験に臨んでいけるのはよい。